

第1回 新大橋景観検討委員会 議事要旨

日時及び場所

日時：平成28年12月26日（月）

（現地視察）13時20分～14時30分

（会議）15時00分～17時30分

場所：（現地視察）新大橋周辺

（会議）島根県職員会館多目的ホール

出席者

飯野委員、大屋委員、小草委員、柴田委員、二井委員、原田委員、藤居委員、本間委員、吉田委員、渡部委員

議事次第

- 1) 開会
- 2) あいさつ
- 3) 委員紹介
- 4) 委員会規約（案）
- 5) 委員長の選任
- 6) 議事
 - ①事業概要と景観検討の進め方（資料1）
 - ②設計条件と課題（資料2）
 - ③新大橋をとりまく環境とコンセプトづくりに向けて（資料3、資料4）
- 7) 閉会

配付資料

委員会次第

座席配置図

現地視察ルート図

委員名簿

委員会規約(案)

資料1 事業概要と景観検討の進め方

資料2 設計条件と課題

資料3 新大橋を取り巻く環境

資料4 コンセプトづくりに向けて

議事概要

1. 委員長選出等について

- ・委員長は二井委員を選出。
- ・委員長の職務代行は二井委員長が大屋委員を指名。

2. 委員会規約について

- ・事務局案にて承認、同日付けで施行することを決定。

3. 議事①、議事②について

- ・松江大橋、新大橋、くにびき大橋の3橋の桁の高さが分かるとうい。
- ・橋詰が1mぐらい上がるとのこと、現状から全体がどのぐらいの高さになるのか、景観検討のなかで参考になると思うのでできれば分かるとうい。
- ・現況の河積阻害率と、大橋川改修の河川幅の具体的な数値を教えてください。

4. 議事③、議事④について

【全般】

[意見]

- ・この委員会では新大橋の景観だけを議論するのではなく、まちの魅力を高めるためにどういうあり方がよいのかまで考えていきたい。
- ・新大橋の主体である県や大橋川の主体である国、まちづくりの松江市が一体となって松江の魅力アップにつなげられればよい。
- ・大橋川改修の国、新大橋の県、町並みや景観の市が一体となり、100年のスパンでいろいろな角度からよりよい松江を考えていかなければならない。
- ・まちの活性化という観点からも「松江のまち全体の魅力アップに貢献できる橋」とはどんな橋なのか考えていかなければならない。
- ・耐震基準を満たしてない松江大橋から新大橋への公共交通（バス）の機能転換を考えないといけない。

【大橋川沿いの水辺空間と新大橋】

[意見]

- ・人が歩き、ゆっくり時間を使うような空間づくりや、人の動線、水辺に近づきやすさなどについても新大橋を考えるなかで検討するとよい。
- ・大橋川沿いの水辺のルートが橋で遮断されているが、連続した水辺のルートをつくることが重要である。
- ・大橋川周辺まちづくり基本計画のなかで、水辺を回遊することが基本的な方針として打ち出されているので、橋の形状や擦り付け部分はその方針を踏まえて議論していく必要がある。
- ・魅力的な大橋川沿いを歩くルートは極めて大事なことであり、人の流れを生み出せるかまで議論できるとよい。

【橋詰空間】

[意見]

- ・今の新大橋にはないが、橋詰空間のデザインは極めて重要で、橋の美しさを決定づけるところと言ってもよい。
- ・大橋川の水辺沿いをどう使うか、どのような姿を目指すのかを展望して橋詰をつくることは大事。
- ・新大橋北側の橋詰空間においては、昼間は橋側から河岸沿い西へ進入する車は少ないと思われるので、車を直接乗り入れるべきではない。美しくないし危険である。
- ・居住している人たちにとって車の通行を禁止するのはどうか。居住者とのコンセンサスが必要。
- ・居住者にとっては、目の前の道路が高くなって非常にうっとうしい感じになるのでは。直接車で新大橋の道路に出ることができなくても回って出ればよいのではないか。
- ・人が歩くということは車をある程度排除するということになるが、議論していく価値はある。

【新大橋の歩行・自転車空間】

[意見]

- ・ 宍道湖大橋と松江大橋は、踊り場のようなもの（アルコーブ）が整備されているが、新大橋もそのような空間を考えていければよい。
- ・ アルコーブをつくるかどうかは別として、橋の上に佇んで大橋川を眺めたくなるような空間づくりは大事。
- ・ 自転車で橋を渡り通学している学生も結構いるので、自転車通学の目線での検討もあるのではないか。
- ・ 橋の前後も整備したうえで歩行空間や自転車空間をつくるべき。
- ・ 公共交通が充実してないエリアでは、自転車の使い勝手は重要。自転車専用通行帯を設ける区間と設けない区間との接続がうまくできるのか、橋梁上の歩道と自転車道の幅員構成の議論も必要かもしれない。

【水辺・水面利用】

[意見]

- ・ 昔は骨材を運ぶ船や汽船が往来しており賑わいがあった。筏船もあり風情があった。最近では船の往来が少なく、活気がないのは残念だが、最近のイベントとして、燈籠流しが大変風情があり、兩岸を歩く人が多く一晩ではあるが賑わいがある。
- ・ 市民レガッタといった、水辺を利活用するまちならでの発想があってもよいのではないか。
- ・ ぎりぎりまで水辺に近づける場所は川への転落事故が起こる可能性がある。川に落ちてしまった時の対応を考えないと水辺に近づけないということになる。その辺り示していただきたい。
- ・ 大橋川沿いを歩いてみると案外段差がないところがあり、ぎりぎりまで近づくと落ちる怖さを感じた。段差をうまく利用したアプローチなど、水辺に近づくのに怖さを感じさせない工夫が必要ではないか。
- ・ 必要などころには柵を付けざるを得ないと思うが、高低差の処理をうまくしないと水辺に近いところはつくりにくい。

- ・柵を付けない場所での落ちた時の対策としては、浮き輪をすぐ手に取れるように配置するなどの手当をしているところが多いと思う。
- ・昔は水辺に降りられる石段があったが、風情があり安全であると感じていた。それを水辺に触れられるよい場所と考えるか、落ちそうで危険な場所と考えるかは、人によって違う。

【橋のデザイン・ディテール】

[総括]

『シンプルなのにキラッと光る橋』を目指す。

[意見]

- ・水面や船からの景観も大事ではないか。
- ・『松江らしさ』は、個人差がかなりあり共有しづらいが、大橋川の本風景となるとそれぞれの世代で共有できる。
- ・新大橋を単体で考えるのではなく、周辺への波及・影響を考えながら、まちを一体にする先例となるようなデザインを設計してほしい。
- ・大橋川の短い区間に橋が何本もあるが、とりわけ新大橋から宍道湖大橋の間は比較的古い街並みが残っていて、その歴史的景観を大事にしようという意見は出てくると思う。新大橋の特徴づけについて、今後考えていかなければならない。
- ・周辺の町並みを考えると、将来を見通しても高層の建物が立ち並ぶことは想像がつかないと思うので、橋の検討にあたっては、今ある建物のスケール感を大事にするということは重要な視点。
- ・大橋川改修計画では、松江大橋からくにびき大橋までの区間について景観に配慮した整備が重点的に行われる計画になっている。新大橋もその一連の中で役割を持っており、例えば新大橋を歩けば松江大橋や柳並木が見えるといった機能は当然まちづくりや大橋川の景観計画のなかでも十分意識している点。
- ・松江大橋から新大橋を眺めた時に天気がよい日は大山が見えるので、そのような松江大橋からの眺めも意識するとよい。

- 松江大橋を建てるときに、その当時、日本の橋ではあまりなかった展望台をわざわざ設置している。
- 大変なお金を掛けてつくり、100年もそこに存在するものだから、松江の新たな景観となる橋をつくるという視点も必要ではないか。
- 周りが映えるワンポイントを入れるなど構造物の色を考えるべきである。
- くにびき大橋の親柱は縄のデザインになっており、歩く時にとってもよい感じがする。新大橋にも何かそういったものがあれば特色づけられる。
- 他県の橋で、季節によって橋をライトアップする色を変えている事例がある。昼夜の効果などを考えた照明デザインも検討するとよい。
- 高欄のデザインは非常に大事。松江大橋のように和風になるとかなりイメージは変わってくる。一方、今までの歴史的なまちから若い元気なまちになっていく可能性もある。そんな若い人の雰囲気の後押ししてくれる様な洗練された部分も議論の俎上に上がってくる。また、照明のデザインも重要なキーワードになる。